

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成30年5月
大津市（滋賀県）

全体総括

○計画期間；平成25年4月～平成30年3月（5年）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市は、平成25年4月以降、認定基本計画に基づき、3つの基本方針のもと、官・民が主体となって47の活性化事業に取り組んできた。

ソフト事業については、秋の音楽祭や大津ジャズフェスティバル等の主要なソフト事業実施に加えて、大津駅周辺エリアから湖岸エリアに至る動線の強化を目的とした公共空間活用事業において、オープンモールやびわガーデンなど公共空間を活用した様々なイベントが実施されるなど、駅・県庁周辺エリア、大津百町エリア、湖岸エリアそれぞれで切れ目のない事業を実施した。

これらの事業により、四季を通じてまちなかの賑わいを創出するとともに、各エリアの回遊性の向上に大きく貢献した。

また、まちなかガイド事業では、まちなかの歴史資源をいかした様々なツアーコースを開催し、多くの方に大津百町を中心に中心市街地の魅力を広く発信し、回遊性の向上に寄与した。

ハード事業については、大津駅改修事業により、駅舎の外観美装化や新たな飲食店がオープンしたことにより、大津駅前の賑わい創出が図られた。

また、民間事業者が大津町家を改修して、外国人観光客向けのゲストハウスに整備する事業が実施されるなど、民間主体によるにぎわい創出に繋がる事業も実施され、まちづくりに対する機運の高まりが見られるなど成果があがっている。さらに、まちなかでの定期的なイベントの開催により、来訪者が増加し、街全体に活気が出てきている。

一方で、札の辻高札場復元事業など未実施のハード事業もあり、今後、民間事業者とも連携を図りつつ、地域と一体となってハード事業の早期完了を目指し、さらなるまちなかへの誘客と回遊に結び付けていくことが必要である。

【中心市街地の状況に関する基本的なデータ】 基準日4月1日

（中心市街地区域内）	23年度（計画期間開始前年度）	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（計画最終年度）
人口	11,165	11,307	11,923	12,065	12,144	12,070
人口増減数	214	142	616	142	79	▲74
社会増減数	—	—	—	—	—	—
転入者数	—	—	—	—	—	—

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

事業実施状況としては、全47事業のうち、実施済み36事業、実施中5事業、未実施6事業と着手率としては、87.2%であり、札の辻高札場復元事業など一部未実施のハード事業が残ったが、概ね順調に進捗・完了した。

一方で、中心市街地の人口は、近年のマンション建設により、平成17年を境にして増加を続けてきたが、平成29年は、前年より74人の減少に転じている。また、歩行者通行量調査においても、平成24年度の9,178人から着実に増加し、平成28年度には12,116人と目標値を上回ったが、平成29年度は、10,254人と目標値を下回っており、市を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いている。

ただし、このような状況においても、官民連携による公共空間を活用したオープンモールやなぎさカフェなどの継続的なイベントの実施や大津町家を宿泊施設に改修するなどの歴史的資源を活用した事業が実施され、地域のまちづくりに対する機運の上昇やにぎわいの創出が図られたと判断している。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

公共空間を活用したエリア全体の賑わい創出を図るため、大津公共空間活用協議会が設置され、各種団体と連携し、湖岸エリアをはじめ、各エリアの賑わい創出に繋げた。また、民間による町家等改修事業など、民間主体によるにぎわい創出へ繋がる事業が実施されるなど官民連携による賑わいの創出や人や団体との結びつきによる賑わい創出に繋がった。

一方、駅前から湖岸を結ぶ人の流れがさらに必要であり、今後も民間事業者と連携を図りつつ地域と一体となって進めていく必要がある。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

大津市のまちづくりに関する市民意識調査（平成27年12月）から、市民の評価としては、若干の活性化が図られたものと判断する。理由としては、以下のとおり。

[市民意識調査]

- 約73%の人が大津市での暮らしに満足している。
- 平成24年度調査時に比べ、「大津市に住みたい」割合があがっている。
- 平成24年度調査時に比べ、中心市街地活性化の施策満足度は上昇しているが、施策全体としては、低いため、引き続き活性化に取り組むことが必要である。

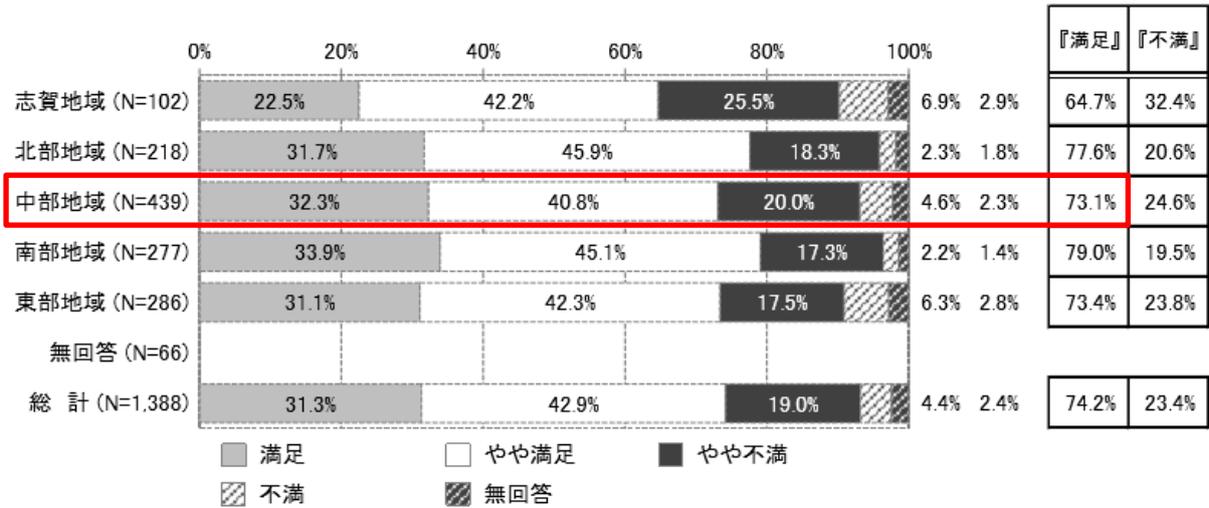
大津市のまちづくりに関する市民意識調査[平成27年度]

<調査の概要>

- ・調査の対象及び人数：住民基本台帳から無作為に抽出し、18歳以上の市民3,000人を対象
- ・調査方法：郵送により、調査票の配布回収
- ・調査期間：平成27年12月11日～平成27年12月28日まで
- ・回収状況：配布数3,000件 回収数1,388件 回収率46.3%
- ・その他：統計データの地域区分において中心市街地（長等、逢坂、中央）は、「中部地域」に属する

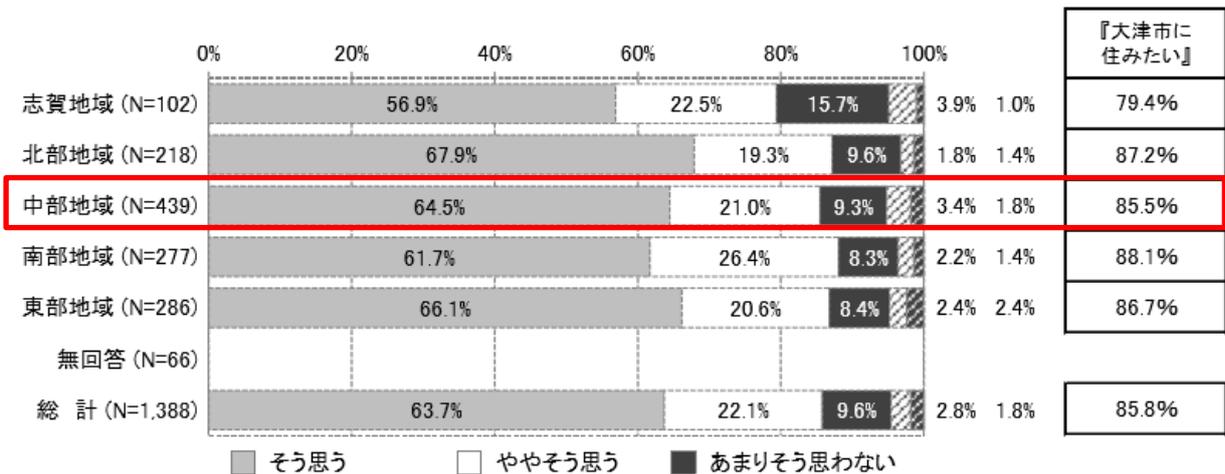
●大津市での暮らし満足度

○約73%の人が大津市での暮らしに満足している。



●今後の定住意向

○平成24年度調査時に比べ、「大津市に住みたい」割合があがっている。



●施策満足度

○平成24年度調査時に比べ、中心市街地活性化の満足度得点が上昇している。

表3.1 第3期実行計画施策別 満足度得点

満足度順位			部門	施策	施策の概要	満足度得点		増減値
H27	H26	変動				H27	H26	
47	52	▲	(6)	25	中心市街地に活力のあるまちづくり	2.95	2.60	0.35
48	47	▼	(8)	36	勤労者が充実感を持って働けるまちづくり	2.93	2.90	0.03
49	45	▼	(4)	12	高齢者が健やかに暮らせるまちづくり	2.92	2.91	0.01
50	49	▼	(9)	39	地域交通網が整ったまちづくり	2.89	2.87	0.02
51	50	▼	(1)	1	協働のまちづくり	2.84	2.87	▲0.02
52	51	▼	(1)	2	効率的で開かれた行政運営	2.76	2.74	0.02
満足度の平均						3.08	3.03	0.04

※順位の一は変動なし、▲は上昇、↑は10位以上上昇、▼は下降、↓は10位以上下降を示している
 ※網掛けは、前回調査(H26)と比較し、満足度が 0.3 ポイント以上上昇した施策を示している
 ※得点表示は小数点第2位までだが、順位及び増減値は小数点第3位も考慮している

6. 今後の取組

前計画の取組による賑わい効果を中心市街地全体へ波及させることが重要である。

今後、駅から湖岸、まちなかへの動線づくりによる恒常的な賑わい創出、宿場町大津に相応しい歴史的資源の活用による来訪者の滞在時間の延長、官民連携によるまちづくりの強化による民間活力を活かすにぎわいづくりを推進していく。

具体的には、大津駅前公園及び中央大通りやなぎさ公園において、民間の活力を活かしてカフェなどの施設誘致を行うことや、空き家等を対象としたリノベーションスクールを開催し、町家の利活用に取り組む人材育成に取り組んでいく予定である。

今後も効果を継続していくことが重要であることから、目標の達成状況に関する目標指標に基づく評価を継続して実施していく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
駅・港を結ぶ動線リニューアルによるにぎわい創出	休日の歩行者・自転車通行量(人/日)	9,387 (H23)	11,650 (H29)	10,254	H30.3	<u>b</u>
	町家等の活用による複合的都市機能の充実	商店街における新規商業店舗数(店) 〔補助指標〕 商店街の店舗数	26 (H19~23)	46 (H25~29)	52	H30.3
琵琶湖湖岸・港における集客・交流機能の強化	琵琶湖観光客入込数(万人/年)	151.1 (H23)	160 (H29)	178.8	H28	A

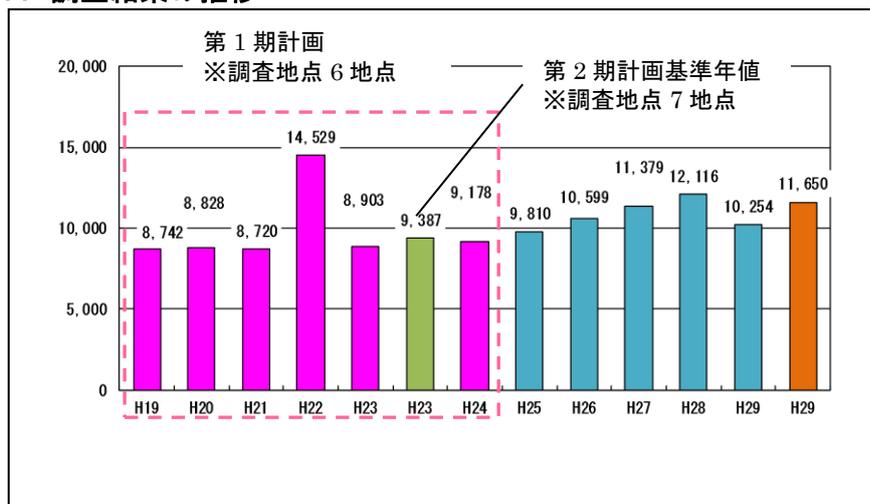
注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)
- a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)
- c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「休日の歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P77～P81 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H23	9,387 (基準年値)
H25	9,810
H26	10,599
H27	11,379
H28	12,116
H29	10,254
H29	11,650 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査

※調査月：各年9月～3月に実施（年6回）

※調査主体：大津市

※調査対象：歩行者・自転車、休日の午前10時～午後6時、7地点

2. 目標達成の状況【b】

本目標指標については、目標値11,650人に対して、平成29年度実績で10,254人となっており、目標達成には至らなかった。

また、目標指標である歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、関係者との調整に時間を要し、進捗が遅れが生じたものや、事業実施に向けた合意形成が整わなかったことにより一部未実施となった事業があった。

平成29年度実績の通行量は、減少となったが、平成28年度までの通行量をみると事業実施の効果が徐々に現れ、通行量が上昇し、平成28年度は、12,116と目標値である11,650人を上回っている。

今後も旧東海道まちなみ整備事業が平成30年度に完了することや町家改修事業により実施した7棟が今後開店することもあり、さらなる増加が見込める状況である。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 旧東海道まちなみ整備事業（大津市）

支援措置名及び支援期間	支援措置名：社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業(都心地区)) 支援期間：平成23年度～平成26年度
事業開始・完了時期	事業開始：平成23年度 完了時期：平成29年度【実施中】
事業概要	江戸中期に大津百町と称された賑わいあふれる都市形成の基軸となった旧東海道において、修景舗装及び無電柱化による歴史的なまちなみ空間を整備する。
目標値・最新値	目標値788人 最新値233人
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	関係者との調整に時間を要し、事業が完了しなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	本事業の実施に伴い、旧東海道沿道地域住民による検討組織(旧東海道まちなみ整備検討委員会)が設立され、地域住民のまちづくりに対する機運が高まり、沿道町家の修景が積極的に進められている。また、

	沿道の活用がなされていない空き町家についても、活用意向が示され、本事業完了時には、新たに4軒の新規店舗が開業する予定となっている。
当該事業の今後について	修景舗装については、完了している。今後は、平成30年度に電線管理者による電線共同溝へのケーブル入溝、既設ケーブルの撤去をもって完了予定

②. 町家等活用事業 (株)まちづくり大津、民間事業者)

支援措置名及び支援期間	支援措置名：商店街・まちなかインバウンド促進支援事業 (中心市街地活性化事業) 支援期間：平成27年度 支援措置名：地域未来投資促進事業(まちなか集客力向上支援事業) 支援期間：平成29年度
事業開始・完了時期	事業開始：平成26年度～ 【済】
事業概要	町家等を改修し、魅力ある商業施設を整備することにより大津らしいまちなみの形成とともににぎわいを創出する。
目標値・最新値	目標値360人 最新値34人
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	平成29年度に商店街に点在する空き町家7棟を宿泊施設に改修する事業が実施されたが、平成30年6月にオープン予定であり、今後効果が現れてくるものとする。
計画終了後の状況(事業効果)	平成29年4月に大津町屋の宿 粋世がオープンし、平成30年6月には、商店街ホテル大津町家が7棟オープン予定である。
当該事業の今後について	「実施済み」

③. 大津駅前商店街再生整備事業(大津駅前商店街振興組合)

支援措置名及び支援期間	支援措置の活用はなし
事業開始・完了時期	事業開始：平成26年度～ 【未】
事業概要	大津の玄関口でもある大津駅前商店街の再生を図り中心市街地全体の回遊性を促す動線としての機能を発揮するため、アーケード改修等の施設整備をする。
目標値・最新値	目標値408人 最新値 -
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	事業実施について協議が行われていたが、事業着手にかかる合意形成に至らず未実施となったもの。
計画終了後の状況(事業効果)	事業実施に至らず
当該事業の今後について	今後も事業主体において、事業実施にかかる協議を行い、事業の方向性を検討していく。

④. 県庁周辺県有地活用促進事業(旧滋賀会館、旧体育文化館及びその周辺施設)(民間)

支援措置名及び支援期間	支援措置名：暮らし・にぎわい再生事業(予定) 支援期間：平成26年度～平成29年度
事業開始・完了時期	事業開始：平成25年度 完了時期：平成29年度 【実施中】
事業概要	県庁周辺の老朽化等により既に利用をやめたり、今後やめる予定の施

	設について、民間の活力を生かした土地利用等を図り、集客・交流・にぎわいを活性化する。
目標値・最新値	目標値 220 人 最新値—
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	県庁西側の県有地の活用方策の検討に日数を要したため、当初の計画より遅れが生じており、平成 29 年度の完了が困難となったため。
計画終了後の状況（事業効果）	日本放送協会による平成 32 年度後期の新大津放送会館の運用開始により、県庁周辺地域の集客・交流・にぎわいの活性化が図られる見込みである。
当該事業の今後について	旧滋賀会館について、事業者である日本放送協会により、平成 32 年度後期の新大津放送会館の運用開始に向けて取り組みを進める。

⑤. 大津駅西地区第一種市街地再開発事業（大津駅西地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	支援措置名：社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） 支援期間：平成 21 年度～平成 25 年度
事業開始・完了時期	事業開始：平成 21 年度 完了時期：平成 26 年度 【済】
事業概要	駅前広場に面した街区において、土地区画整理事業とあわせて市街地再開発事業を誘導し、まちなか居住の推進や駅前にふさわしい市街地整備を図る
目標値・最新値	目標値 445 人 最新値 256
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	大津駅西第一土地区画整理事業が、現在も実施中であるため
計画終了後の状況（事業効果）	施設建築物は、再開発ビルとして 181 戸の住宅を備え、まちなか居住の推進に貢献している。また 1 回及び 2 階の店舗・施設にはコンビニエンスストア、飲食店、クリニック等が入居しており、賑わいの創出に繋がっている。
当該事業の今後について	「実施済み」

⑥. 大津駅西第一土地区画整理事業（大津市）

支援措置名及び支援期間	支援措置名：社会資本整備総合交付金（都市再生土地区画整理事業） 支援期間：平成 21 年度～平成 27 年度
事業開始・完了時期	事業開始：平成 21 年度 完了時期：平成 28 年度 【実施中】
事業概要	土地区画整理事業による基盤整備、住宅市街地総合整備事業による住環境整備を行い、駅前にふさわしい市街地整備を図る。
目標値・最新値	目標値 52 人 最新値—
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	関係者との調整に時間を要したため、当初計画より 3 年の遅れが生じたため
計画終了後の状況（事業効果）	誘導した再開発事業は、平成 26 年度に完了し、一定の成果が出ているが、街区の再編による土地利用の促進面において、集合住宅の更新などはあったものの、商業施設といった集客力のある施設が少なく、活性化において大きな成果があったとは言いにくい。
当該事業の今後について	平成 30 年度に全ての道路築造工事、宅地整備工事を完了し、平成 31 年度にかけて換地処分、精算行為を行い、竣工する。

4. 今後について

通行量の増加を目指すためには、恒常的なにぎわい創出や来訪者の滞在時間の延長に繋がる取組を行っていくことが必要である。今後は、大津駅から湖岸、まちなかへの動線作りや宿場町大津に相応しい歴史的資源のさらなる活用に官民連携して取組んでいく。

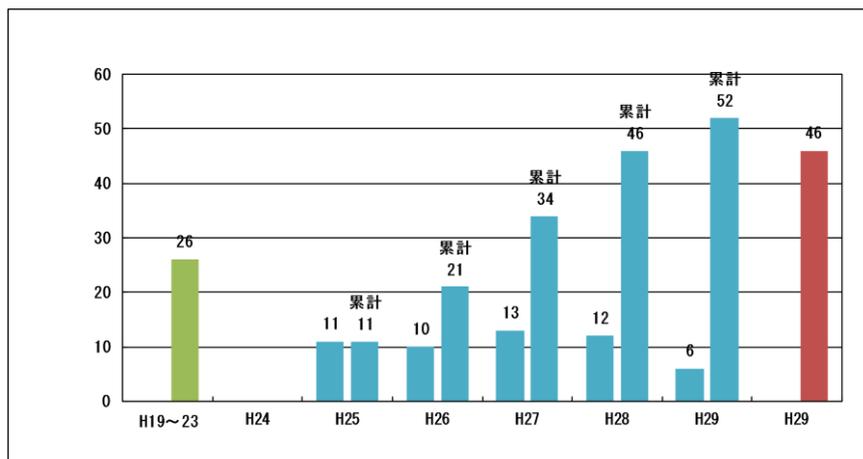
具体的には、大津駅前公園及び中央大通りやなぎさ公園において、民間の活力を活かしてカフェなどの施設誘致を行うことや、空き家等を対象としたリノベーションスクールを開催し、町家の利活用に取り組む人材育成に取り組んでいく予定である。

計画終了後も中心市街地活性化に向けて、以上のような取組を推進するとともに、計画期間中に発現した効果が持続しているか検証するため、目標指標の測定を継続的に実施していく。

個別目標

「商店街における新規商業店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P89～P91 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位: 店舗)
H19~23	26 (基準年値)
H25	11
H26	21
H27	34
H28	46
H29	52
H25~29	46 (目標値)

※調査方法：現地調査

※調査月：各年3月に実施

※調査主体：大津市

※調査対象：商店街における新規商業店舗

2. 目標達成の状況【A】

本目標指標については、目標値46に対して、平成29年度実績で52となっており、目標を達成した。

また、目標指標である商店街における新規商業店舗の増加に向けた各事業については、おおむね予定どおり完了したものの、事業実施に向けた合意形成が整わなかったことにより一部未実施となった事業があった。

しかし、大津駅西地区第一種市街地開発事業や町家等活用事業、さらには空き店舗再生支援事業等の効果により、目標値を大きく上回った。

補助指標である商店街における店舗数についても、平成29年度は、612となっており、平成25年度の562店舗より増加した。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 大津駅西地区第一種市街地再開発事業（大津駅西地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	支援措置名: 社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等) 支援期間: 平成21年度～平成25年度
事業開始・完了時期	事業開始: 平成21年度 完了時期: 平成26年度【済】
事業概要	駅前広場に面した街区において、土地区画整理事業とあわせて市街地再開発事業を誘導し、まちなか居住の推進や駅前にふさわしい市街地整備を図る
目標値・最新値	目標値4・最新値6
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	再開発ビルの完成により、商業テナントが新規出店したため
計画終了後の状況（事業効果）	施設建築物は、再開発ビルとして181戸の住宅を備え、まちなか居住の推進に貢献している。また1回及び2階の店舗・施設にはコンビニエンスストア、飲食店、クリニック等が入居しており、賑わいの創出に繋がっている。
当該事業の今後について	「実施済み」

②. 町家等活用事業（株式会社まちづくり大津、民間事業者）

支援措置名及び支援期間	支援措置名: 商店街・まちなかインバウンド促進支援事業 (中心市街地活性化事業) 支援期間: 平成27年度 支援措置名: 地域未来投資促進事業(まちなか集客力向上支援事業) 支援期間: 平成29年度
事業開始・完了時期	事業開始: 平成26年度～【済】
事業概要	町家等を改修し、魅力ある商業施設を整備することにより大津らしいまちなみの形成とともににぎわいを創出する。
目標値・最新値	目標値4 最新値1
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	平成29年度に商店街に点在する空き町家7棟を宿泊施設に改修する事業が実施されたが、平成30年6月にオープン予定であり、今後効果が現れてくるものと考ええる。
計画終了後の状況（事業効果）	本平成29年4月に大津町屋の宿 粋世がオープンし、平成30年6月には、商店街ホテル大津町家が7棟オープン予定である。
当該事業の今後について	「実施済み」

③. 大津駅前商店街再生整備事業（大津駅前商店街振興組合）

支援措置名及び支援期間	支援措置の活用はなし
事業開始・完了時期	事業開始: 平成26年度～【未】
事業概要	大津の玄関口でもある大津駅前商店街の再生を図り中心市街地全体の回遊性を促す動線としての機能を発揮するため、アーケード改修等の施設整備をする。
目標値・最新値	目標値3 最新値一
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	事業実施について協議が行われていたが、事業着手にかかる合意形成に至らず未実施となったもの。
計画終了後の状況（事業効果）	事業実施に至らず
当該事業の今後について	今後も事業主体において、事業実施にかかる協議を行い、事業の方向性を検討していく。

④. 空き店舗再生支援事業（大津市）

支援措置名及び支援期間	支援措置名: 中心市街地活性化ソフト事業 支援期間: 平成27年度～
事業開始・完了時期	事業開始: 平成25年度～【済】
事業概要	各商店街が必要と判断する業種の店舗誘致を促進し、活気やにぎわいあふれる商店街の形成を図るため、空き店舗の改修費及び店舗賃借料の一部を補助する。
目標値・最新値	目標値15 最新値15
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	各商店街に新たな店舗誘致を促進し、商店街における空き店舗の解消に繋がったため
計画終了後の状況	空き店舗再生支援事業により、中心市街地にある商店街の空き店舗への

況（事業効果）	出店促進につながった。
当該事業の今後について	事業レビューの結果を受け、事業の見直しを行う。

⑤. 大津百町町家じょうほうかん運営事業（協議会、㈱まちづくり大津）

支援措置名及び支援期間	支援措置の活用はなし
事業開始・完了時期	事業開始:平成19年度～【実施中】
事業概要	町家の「貸手或いは売手」と「借手或いは買手」の間の橋渡しを行い、町家の利活用・住み替えの支援などを行い、町家の保存・活用を促す。
目標値・最新値	目標値5 最新値1 （町家利活用事業の1件）
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	2期計画において9件の成約に至ったが、商業店舗として活用されたものは少なかったため
計画終了後の状況（事業効果）	大津町家の宿「粹世」、飲食店、商店街ホテル大津町家につながり、町家の利活用が図られた。
当該事業の今後について	事業を今までと同内容で継続し、今後も町家の活用促進を図っていく。

4. 今後について

商店街における新規商業店舗の増加を目指すためには、町家や空き店舗の活用に繋がる取組を引き続き行っていく必要がある。今後は、宿場町大津に相応しい歴史的資源のさらなる活用に官民連携して取組んでいく。

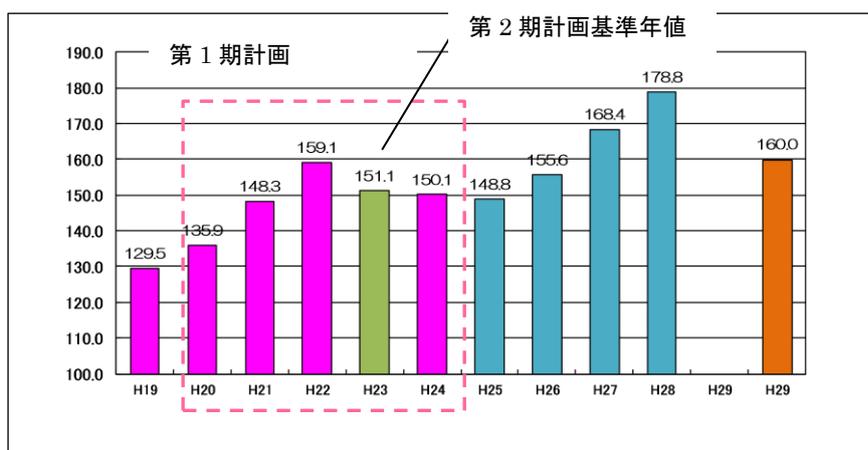
具体的には、空き家等を対象としたリノベーションスクールを開催し、町家の利活用に取組む人材育成に取り組んでいく予定である。

計画終了後も中心市街地活性化に向けて、以上のような取組を推進するとともに、計画期間中に発現した効果が持続しているか検証するため、目標指標の測定を継続的に実施していく。

個別目標

「琵琶湖観光客入込数」※目標設定の考え方基本計画 P92～P96 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：万人)
H23	151.1 (基準年値)
H25	148.8
H26	155.6
H27	168.4
H28	178.8
H29	—
H25～29	160 (目標値)
年	(単位：万人)

※調査方法：滋賀県観光入込客統計調査（毎年度3月実施）

※調査月：各年3月末時点調査（毎年9月頃に取りまとめデータが確定）

※調査主体：滋賀県・大津市

※調査対象：湖岸エリアにおけるイベント、施設等の入込み客数

2. 目標達成の状況【A】

本目標指標については、目標値160万人に対して、平成28年度は178.8万人となっており目標を上回っている。

要因として、大津駅西地区第一種市街地再開発事業のハード整備による事業効果が発現されたことや湖岸公園活用ソフト事業をはじめとする各種イベントなどのソフト事業が継続的に実施されたことにより、目標値を大きく上回っているものと考えられる。

また、平成29年度においても推計値ではあるが184.5万人となっており、各種事業効果が発現しているものと考えられ、平成30年9月頃に確定予定の平成29年度の数値は、目標達成可能と見込んでいる。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 湖岸公園活用ソフト事業（民間、中心市街地活性化協議会、㈱まちづくり大津）

支援措置名及び支援期間	支援措置の活用はなし
事業開始・完了時期	事業開始:平成25年度～【実施中】
事業概要	湖岸公園は琵琶湖に面する絶好のロケーションを誇り、イベントの舞台として活用が図られており、新たなソフト事業を実施することによって一層の魅力発信とともに集客・賑わいを創出する。
目標値・最新値	目標値38千人・最新値301千人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	琵琶湖湖岸で数多くのイベントが実施され賑わい創出に繋がっている。
計画終了後の状況（事業効果）	2期計画期間中に新たなイベントが実施され、湖岸の賑わい創出に繋がっている。
当該事業の今後について	事業を今までと同内容で継続し、さらに湖岸の恒常的な賑わい創出に向け取り組んでいく。

②. 湖岸エリア・アートプロジェクト（大津市、中心市街地活性化協議会）

支援措置名及び支援期間	支援措置名:社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業(都心地区)) 支援期間:平成22年度～平成26年度
事業開始・完了時期	事業開始:平成25年度 完了時期:平成29年度【済】
事業概要	「美」をテーマに一体的な活動を行うことで、活発性と連続性を確保し、湖岸エリア全体が目的地化するとともに、地域イメージの向上による集客の増加とともに賑わいを創出する。
目標値・最新値	目標値 55千人 最新値0
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	事業自体は、平成25、26年度の2ヵ年で実施されたが、テーマであるアートパーク化には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	子どもアートセッションについては毎回ほぼ定員上限の参加人数であり、また参加者からは満足度の高い声も聞かれた。ふれるアート美術館についても、開催期間中、4万人を超える来場者がありまちなかの賑わい創出に寄与した。
当該事業の今後について	他プロジェクトへ統合されたため廃止

③. 旧東海道まちなみ整備事業（大津市）

支援措置名及び支援期間	支援措置名:社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業(都心地区)) 支援期間:平成23年度～平成26年度
事業開始・完了時期	事業開始:平成23年度 完了時期:平成29年度【実施中】
事業概要	江戸中期に大津百町と称された賑わいあふれる都市形成の基軸となった旧東海道において、修景舗装及び無電柱化による歴史的なまちなみ空間を整備する。
目標値・最新値	目標値6千人 最新値16千人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	本事業の実施により、地域住民のまちづくりに対する機運が高まり、沿道町家の修景が積極的に進められたため
計画終了後の状況（事業効果）	本事業の実施に伴い、旧東海道沿道地域住民による検討組織(旧東海道まちなみ整備検討委員会)が設立され、地域住民のまちづくりに対する機運が高まり、沿道町家の修景が積極的に進められている。また、沿道の活用がなされていない空き町家についても、活用意向が示され、本事業完了時には、新たに4軒の新規店舗が開業する予定となっている。
当該事業の今後について	修景舗装については完了した。今後は、平成30年度に電線管理者による電線共同溝へのケーブル入溝、既設ケーブルの撤去をもって完了予定

④. 大津駅西地区第一種市街地再開発事業（大津駅西地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	支援措置名:社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等) 支援期間:平成21年度～平成25年度
事業開始・完了時期	事業開始:平成21年度 完了時期:平成26年度【済】
事業概要	駅前広場に面した街区において、土地区画整理事業とあわせて市街地再開発事業を誘導し、まちなか居住の推進や駅前にふさわしい市街地整備

	を図る
目標値・最新値	目標値14千人・最新値17千人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	事業が完了したため
計画終了後の状況（事業効果）	施設建築物は、再開発ビルとして181戸の住宅を備え、まちなか居住の推進に貢献している。また1回及び2階の店舗・施設にはコンビニエンスストア、飲食店、クリニック等が入居しており、賑わいの創出に繋がっている。
当該事業の今後について	「実施済み」

4. 今後について

琵琶湖観光客入込数の増加を目指すためには、恒常的なにぎわい創出や来訪者の滞在時間の延長に繋がる取組を行っていくことが必要である。今後は、大津駅から湖岸、まちなかへの動線作りや宿場町大津に相応しい歴史的資源のさらなる活用に官民連携して取組んでいく。

具体的には、大津駅前公園及び中央大通りやなぎさ公園において、民間の活力を活かしてカフェなどの施設誘致を行うことや、空き家等を対象としたリノベーションスクールを開催し、町家の利活用に取組む人材育成に取り組んでいく予定である。

計画終了後も中心市街地活性化に向けて、以上のような取組を推進するとともに、計画期間中に発現した効果が持続しているか検証するため、目標指標の測定を継続的に実施していく。